

期 中 の 評 価 個 表

事業名	民有林直轄治山事業	事業計画期間	昭和27年度～平成21年度
事業実施地区名 (都道府県名)	祖谷川地区(いやがわ) (徳島県)	事業実施主体	四国森林管理局 徳島森林管理署
事業の概要・目的	<p>当地区は、基岩が著しく破碎され、大規模な崩壊や地すべり性の崩壊を起しやすく、古くから豪雨の都度、土砂災害が発生しており、徳島県により治山事業が実施されてきた。</p> <p>広範囲にわたる多数の大規模崩壊地の復旧と渓流に大量に堆積する不安定な土砂の固定、流出防止を図るには、大規模で継続的な治山対策が必要であることから、徳島県、地元村等の強い要請も踏まえ、昭和27年度から民有林直轄治山事業として、本事業に着手した。その後、大規模な災害の発生に応じ、事業内容を見直しつつ、現在に至っている。</p> <p>主な事業内容 山腹工 20.15ha 溪間工 384基</p>		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	<p>本事業の採択当時においては事業評価制度が導入されておらず費用対効果分析を行っていないが、現時点における費用対効果分析結果は以下のとおりである。</p> <p>総費用(C) 19,864,755千円 総便益(B) 97,843,093千円 分析結果(B/C) 4.93</p>		
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	<p>当地区は御荷鉾構造線沿いに位置し、脆弱な地質構造であり、融雪及び豪雨の都度山腹斜面の崩壊により、森林の被害、崩壊土砂の流出が発生していた。下流には、名頃ダムが設置され、水需要の増大により、ダム機能の維持・保全が強く求められている。</p> <p>保全対象：人家1390戸、農耕地352ha、国道439号、438号線、県道、町道</p>		
事業の進捗状況	<p>山腹崩壊地については、崩壊地の拡大防止及び復旧整備のため土留工の設置、草・木本類による緑化工を実施、渓流については、不安定堆積土砂の流出防止及び溪岸侵食の防止を図るため溪間工の整備を進めており、平成15年度までの事業の進捗率は90%(事業費)の見込みである。</p>		
関連事業の整備状況	<p>直轄治山治山事業下流域で実施されている関連事業とは、調整会議等により十分な連携調整を図りながら、効果的・効率的な事業実施に努めている。</p>		
地元(受益者、地方公共団体等)の意向	<p>当地区においては、過去に土砂の流出及び地すべり性崩壊により人家、国道に被害が発生しており、地すべり現象の再発生及び継続性が危惧されることから継続的な治山事業の実施を要望する。(東祖谷山村)</p> <p>当地区は、御荷鉾構造線沿いに位置し、脆弱な地質構造であり、過去に土砂の流出及び地すべり性崩壊により人家、国道に被害が発生した地区である。</p> <p>当該事業は、荒廃地の復旧など災害の未然防止に大きく貢献しているが、より一層の安全性を確保するため、現行計画の早期概成を要望する。(徳島県)</p>		
事業コスト縮減等の可能性	<p>間伐材や転石等の現地発生材を利用した工法を採用するなどにより事業費の低減を図っており、今後もより一層のコスト縮減に努めることとしている。</p>		
代替案の実現可能性	<p>該当なし</p>		
第三者委員会の意見	<p>事業の必要性、有効性、効率性が認められること、地元の強い要望もあることから、今後とも周辺環境に配慮しつつ事業を継続実施することが望ましい。</p>		
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要性： 山腹崩壊地及び溪床に堆積する不安定土砂の状況から、放置すれば崩壊地の拡大等が懸念されること、地元からも保安林機能の発揮が期待されていることから、下流域の保全のため当事業の実施が必要である。 ・有効性： 事業の実施により崩壊地の復旧や溪床に堆積する土砂の安定など下流域の保全等が図られることから、事業の有効性は認められる。 ・効率性： 対策工の計画に当たっては、現地に応じた最も効果的かつ効率的な工種・工法で検討されており、また、事業実施に当たってもコスト縮減に努めていることから、効率性は認められる。 <p>上記からの各項目及び各観点からの評価、並びに第三者委員会の意見を踏まえて総合的かつ客観的に検討したところ、事業の継続実施が妥当と判断される。</p> <p>・実施方針： 継続</p>		